

令和3年2月14日

令和3年度 学校教育自己診断について

○令和3年度における質問項目の選定

昨年度の質問形式を基本に考え、まとめられる質問はまとめて、特に必要と感じられない質問を削除した。

○アンケートの回答形式

全て Classroom でアンケートを実施した。生徒、教職員とも、すべての回答については、必答にして、A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらないの4種類とした。保護者に関して判断に迷う項目は未記入できるようにした。

○アンケートの実施方法

生徒は3年が11下旬、1・2年12月中旬のHR時に教室で行った。

保護者・教職員は12月中旬に Classroom で配信、24日(金)までの期間に回答してもらった。

○回答数

	総数(回収率)	2020年度総数(回収率)
保護者アンケート	519 (全体の 57%)	798 (全体の 84%)
生徒アンケート	853 (全体の 93%)	939 (全体の 98%)
教員アンケート	41 (全体の 64%)	48 (全体の 75%)

*2021年度は1年生が1クラス減

○比較分析の方法

A・Bを合計した数/回答数……「肯定率」とする。

前年度のデータと比較することで、学校運営に対する評価を分析検討する。

(1)保護者アンケートについて

肯定率の平均 80.7%(前年比 0.6%減)

筆答 1年 18 2年 17 3年 6 計 41件

昨年に比べ、肯定率は少し減少したが概ね高い評価をいただいた。コロナ禍のため、昨年度と同様に授業参観は 50.9%(15.4%減)であった。大幅な減少が見られたのはそのせいかと思われる。また、HP64.0%(12.9%減)は、年度当初に、HPの更新ができなかったことにつながったと考えられる。HPの更新にあたっては各学年・分掌・クラブ等で随時更新できるよう、4月当初に再度HP更新手続きやブログの更新方法を連絡していく。

一方、「枚高メルマガ」を「classroom」に変えた項目に関しては、頻繁に classroom での更新があったため、77.9%(15.2%増)となった。

筆答では例年と同様、施設面や教育活動全般に対する要望が中心であったが、今年度は新たに classroom での要望の声が見られ始めた。

(2) 生徒アンケートについて

肯定率の平均 85.3% (前年比 1.7%減)

筆答回答 1年20 2年12 3年23 計 55件

10%以上減少が見られたのが、「ボランティア活動」73.8%(11.2%減)、「事件や災害時の行動」80.6%(10.1%減)である。今年度は全体的に減少した項目が多かった。特に増加したものは「放課後・早朝講習」77.9%(5.2%増)だけであった。コロナ禍の影響が少なからず感じられたと思う。

筆頭では部活動の時間が長いとの意見があった。施設の問題もあり、すべての問題を解決することは容易ではないが、次年度はクラブ代表者会議等で生徒の意見を聞きながら部活動の運営を考えることも必要だと感じた。

(3) 教職員アンケートについて

肯定率の平均 85.6% (前年比 12.0%増) 筆答 5件

アンケート総数が少ないため、例年増減幅が大きくなる。

「肯定率」では、全般的に高い評価が得られた。「肯定率の上昇」では、令和4年度に向けた観点別評価の試行も伴い12評価についての話し合い87.2%(22.0%増)であった。また、24読書活動、19、31生徒指導などの項目においても顕著な上昇がみられた。他の項目もすべて増加傾向であった。

(4) アンケート全般について

アンケートの実施を Googleform にしたことにより、記入の手間がなくなり、アンケートの回答を簡単にまとめることができた。一方、アンケートの回収率は Googleform を活用したことにより減少した。次年度はアンケートの回収方法を改善する必要がある。

アンケートの結果については、生徒と教員の差を考察する必要性を感じ、今年度は各分掌で話し合う機会を設けた。特に授業の受け取り方において、教員と生徒の感じ方にズレが出た結果となった。来年度は観点別評価において、生徒とのやり取りが増えることが予想されるので、その中で生徒と教員の双方の要望に応えられる授業改善に取り組むことを目標としたい。

以上